

■名和靖 なわやすし 蕃書調所・	1857＝	美濃国本巢郡船木村で、大農家に生まれる。
桜田門外変・	1860＝ 3歳：	千坪もある広大な敷地には種々の植物が繁茂、祖父がつくったバラ園のある昆虫飛び交う植物園のような環境のなか、父が蟲譜という図鑑の絵描きでもあったことから、幼い頃より昆虫好きの一方、周辺の農家が風水害や日照りで疲弊して行くのに心を痛めながら育ち、
薩長同盟・	1866＝ 9歳：	
明治維新・	1868＝11歳：	
明治6年政変	1873＝16歳：	
初の民間工場	1875＝18歳：	
大久保暗殺・	1878＝21歳：	岐阜農事講習所に入学、寮生活となる。
琉球処分・	1879＝22歳：	岐阜県農学校に変わる際に赴任してきた生物学者堀誠太郎校長に感化されて、研究態度を身につけ、研究のため飼っていた毛虫が籠から這い出して他の寮生の布団に入り大騒ぎになるも、舎監の配慮でことなきを得る一方、週末に家に戻ると、バラ園で昆虫観察して、アブラムシが胎生であり、アリに支えられ、テントウムシやカゲロウ幼虫に食われることなどを知る。
明治14年政変	1881＝24歳：	
新体詩抄・	1882＝25歳：	卒業とともに、母校の助手に採用されて、研究に専念する環境を得、
岩倉具視没・	1883＝26歳：	岐阜県武儀郡金山村祖師野で捕獲したチョウを、東大の動物学教室石川教授のもとに送って、新種のチョウと確認して貰い、ギフチョウの発見・命名者となる(その後、江戸時代には錦蝶として知られていたことが判明)。以後、その生態研究に乗出す。
秩父事件・	1884＝27歳：	
帝国大学始・	1886＝29歳：	熱望していた帝国大学動物学教室に留学、半年限りの条件ながら、箕作佳吉教授から多くのことを学び、
国民之友始・	1887＝30歳：	個人的な助手名和梅吉がギフチョウの産卵現場に出くわし、以後、二人でその生態を明らかにして、
帝国憲法発布	1889＝32歳：	{動物学雑誌}に発表し学会で報告、世界的に名を知られることになる。
郡司千島探検	1893＝36歳：	
日清戦争始・	1894＝37歳：	
白馬会・	1896＝39歳：	*辞職し、世界的にも珍しい私立の{名和昆虫研究所}を設立し、機関誌{昆虫世界}を発刊。懸案の農村救済のため害虫駆除啓蒙普及すべく、幻灯機を携えて農村巡回、岐阜県からの要請受けて、ウンカ駆除のため東奔西走、頑迷な農民の抵抗受けるも、結果は歴然とし、以後、随所で実行されるようになる。
八幡製鉄始・	1897＝40歳：	この年ウンカ大発生、以後毎年、研究所で害虫駆除の講座を開催。自然界の食物連鎖を明らかにして安易に手を加えることを警告する生態学の先駆含む「薔薇一株・昆虫世界」を研究所から刊行、ベストセラーとなり、一躍有名人になる。
Bushidou・	1899＝42歳：	研究所から「害虫図解第1」を刊行、
教科書疑獄・	1902＝45歳：	
日露戦争終・	1905＝48歳：	「袖珍害虫防除要覧」を研究所から刊行、
韓国反日暴動	1907＝50歳：	“関西建築界の父”ともいわれる武田五一の設計で名和昆虫研究所記念館を開館、続いて東京浅草に通俗教育昆虫館を開館。
伊藤博文暗殺	1909＝52歳：	木村定次郎と共著「新式昆虫標本製作法」。「害虫図解」は第25まで続けた。
大逆事件判決	1911＝54歳：	
明治天皇没・	1912＝53歳：	
大正政変・	1913＝56歳：	*鉄道院からの依頼でシロアリ調査、枕木や駅舎の被害に愕然とし、防除方法を開発、以後、全国鉄道施設を回って指導しながら、その他の建築物等も被害調査、奈良の唐招提寺で柱がやられているのを発見すると、以後毎年訪れて駆除、のちの大改修の際、柱の一本が記念として研究所に寄贈される。
ベルサイユ条約・	1919＝62歳：	この間、獄中で「ファーブルの昆虫記」を読んで翻訳しようとしていた大杉栄が偽名使って講座を聞きに来て、昆虫のことを勉強していったらしく、
大暴落・	1920＝63歳：	武田の設計で、岐阜市に名和昆虫博物館を開館、近くに、還暦を祝って昆虫供養の昆虫碑が建てられる。
原敬首相暗殺	1921＝64歳：	
水平社結成・	1922＝65歳：	この年、大杉栄訳の「ファーブルの昆虫記」が刊行される。
護憲三派圧勝	1924＝67歳：	「昆虫翁白話」、
円本時代始・	1926＝69歳：	病室で最後の講義をして、没した。